「多世代憩いの広場てらっこ」茶店の本格開店

特定非営利活動法人 せき・まちづくりNPOぶうめらん［岐阜県関市］

団体設立の経緯

2007年6月、岐阜県関市のまちづくりをするために当団体を立ち上げました。関市はもともと代表の北村が生まれ育ったまち。大学進学で関を離れてから、少しずつ活力を失っていくまちに危機感を覚え、市民の力でまたこのまちを元気にしたいと思い始めたことがきっかけです。活動を志す上で、いまこのまちに足りないことはなにか。それは、目的を持った市民の実行部隊ではないかと考えています。意見やアイディアを言う人はたくさんいますし、まちづくりを掲げて活動する団体もありました。イベントも多いですが単発です。今必要なのは、専従の職員を持ち、今あるまちづくり活動をコーディネートする存在である。そう考えました。

まずは、「関なんてなんもない」と話す大人の諦め感から変えて行きたいと考え、関市の魅力を発信するフリーマガジン「ぶうめらん」を創刊することからはじめました。その後、2009年には関市市民活動センターの運営委託を受け、まちづくり活動をサポートしています。

地域概要

岐阜県関市は、人口約92,000人。岐阜市に隣接し、名古屋から約40kmに位置します。2005年2月に5市町村が合併し、「V字型」の新関市が誕生しました。同じ関市内でも、名古屋まで1時間で行ける地域もあれば、豪雪地域、過疎地域に指定される地域もあり、大変多様なまちです。

産業としては古くから「刃物のまち」として栄えています。鎌倉時代から関鍛冶のまちとして発展し、戦国時代には、多くの大名に召し抱えられ重宝され、全国各地へ関鍛冶が散って行きました。火縄銃を日本で最初につくったのも関鍛冶といわれています。歴史だけではなく、現在の刃物産業も、包丁、ナイフ、爪切り、ハサミ等多くの分野で日本一のシェアを誇ります。外国産の安価な製品が出回る中、企業がそれぞれ工夫をしながら取組んでいます。

関市におけるNPO法人は32団体。市民活動団体は130団体（関市市民活動センター登録団体）あります。現在、「地域の事は地域で」を合い言葉に、小学校区に一つ、地域の主要団体を網羅した地域委員会を設置。地域の課題を解決する実行部隊として動き始めています。

設立年月 ･･･2006 年 12 月設立　2007 年 6 月法人化
メンバー数 ･･･50 人
代表者名 ･･･ 北村隆幸 (きたむら・たかゆき)
連絡先 ･･･ 〒501-3253　岐阜県関市栄町 1-22-2F
☎ 0575-46-8035　info@vousmelan.com　http://vousmelan.com
団体のミッション ･･･ 私たちは関市が元気で住み続けられるまちにすることを目的としています。

「多世代憩いの広場てらっこ」の開催で、古くからまちを見守ってきた歴史ある寺に多世代の人々が集い、地域ぐるみで子育て支援の機運が高まりつつある。

活動に至った理由や背景

本事業は、2010年に当団体が運営する関市市民活動センターへ、関善光寺の住職が、「善光寺を市民の憩えるお寺にしたい」と相談にお越しいただいたことからはじまりました。同センターは、市内NPOに声をかけ、関善光寺を活かして地域づくりをしようと、市民活動団体約10団体が連携し「関善光寺癒しの会」を結成。年に数回善光寺を舞台にイベントを開催してきました。

2011年、恒常的な賑わい創出のためには、恒常的な取組みの必要性を感じ、開設したのが「多世代憩いの広場てらっこ」です。おばあちゃんのスタッフとママが世話役のスタッフとなり、子どもを連れてママが遊びにくる児童館のような場所です。

この取組みは、浄土宗主催2012年第5回地域・共生文化大賞優秀賞、2013年日本生命未来を強くする子育て未来賞を頂くなど、子育て支援の場、地域の宝を活かした地域づくりと評価されました。2012年、同市内の武芸川地域、上之保地域でもてらっこを開設。2013年には武儀地域でも開設しました。

てらっこ茶屋をつくる理由

関善光寺にて、多世代憩いの広場てらっこを開催し3年目。継続的な取り組みに向けての資金確保やてらっこのさらなる魅力づくりを考えた末、境内に30年ほど使われなくなった茶店があることに着眼しました。

2012年、賞を受賞した資金を活用して、茶店を改装し営業許可をとり、てらっこ茶屋として、てらっこスタッフの中でテスト的に開店しました。しかし、急にはじめた事やカフェ経験者もおらず、思い描く様なてらっこ茶屋には至っていませんでした。

そこで、今回、改めてコンセプトを練り直し、中心になってやってくれるおばあちゃんスタッフを強化し、本格的なキッズカフェとしてリニューアルオープンしようと取組み始めました。

善光寺の境内で遊ぶ親子。茶屋からみた風景

コンセプト会議

まずは、コンセプト、ターゲットをしっかりと練り直しました。スタッフとともに、前年度とったアンケートを基にして、何度も検討を重ねました。その結果、下記のコンセプトに決定しました。

◉ターゲット:子どもを連れたママ
（主に未就園児）

◉コンセプト:「キッズカフェ」
ばぁばが作り手となる実家のようなカフェに

その後、それに合う、メニューや雰囲気等について議論しました。この会議は、3月から引き続き、4月、5月に1回ずつ開催しました。

ばぁばスタッフの募集

コンセプトをもとに、料理好きのばぁば（飲食店での経験がある方がなおいい）のスタッフ募集を開始しました。ハローワーク等で募集してもコンセプトに合う方が見つかる可能性は低いと考えて、てらっこスタッフのばぁばから口コミで探してもらう手法をとりました。いろいろとツテを辿って探しましたが、やはり求める人材のハードルが高くなかなか適任者が見つかりません。予定していた7月のリニューアルオープンを延ばさざるを得なくなりました。その間は、週2回、これまでのてらっこのママスタッフにより、てらっこ茶屋のテスト営業とイベントを引き続き行ってきました。

適任者は、7月になり見つかりました。60代の恩田和子さん。ご自身も多くのお孫さんをもつばぁばです。関市内で、長年ご夫婦で喫茶店を営まれてきましたが、旦那さんが身体を悪くされた事もあり、9月いっぱいでお店を閉店するとのこと。これまでの喫茶店での経験と恩田さんの人柄にこれ以上の方は見つからないと考え、9月の閉店をまって10月から茶店をリニューアルオープンできるように準備を整えることとなりました。

メニューの決定

恩田さんを含め、8月、9月と2ヶ月かけて、10月のリニューアルオープンに向けて様々なことを話し合う会議を開催しました。そこでは、メニュー、食器、食材等について話し合いました。

「日替りばぁばのヘルシーランチ」600円

煮物を主とした、ばぁば自家製の旬野菜のランチです。実家にいるような温かさをお楽しみに。

上から：茶屋を切り盛りしてくれる優しいばぁば恩田さん／人気のばぁばの日替りヘルシーランチと茶屋からみる善光寺の風景／恩田さんの旦那さんがつくる野菜

その他のメニュー

○ドリンクall350円（モーニング付き400円）
○新善光寺うどん　ラーメン　500円
○スコーン　300円
○離乳食　200円
○新ぜんざい（焼き餅入）450円

ドリンクには、妊婦さんでも飲めるようたんぽぽ珈琲を置き、葉酸がとれるグレープフルーツジュースもメニューに加えました。ランチには、子ども用に柔らかいにゅうめんを用意し、ママも子どもも満足できるものにしました。

食材について

食材は、恩田さんの旦那さんが作っている野菜を使う事にしました。恩田さんの旦那さんは、幅広く野菜をつくっており、安心安全な季節の旬野菜が安く手にはいります。また、その野菜をてらっこ茶屋で販売もすることにしました。

てらっこ茶屋 リニューアル記念 イベント

10月29日（火）11時～

リニューアルオープンイベントとして、関善光寺佐藤住職の協力を得て、下記の記念イベントを開催しました。

◉みんなで、関善光寺護摩の
御祈願体験と住職とのティータイム

これは、リニューアルオープンするランチを注文してくれた方に「お願いごとの護摩木」をプレゼントし、願い事を書いて本堂へお納めいただき、善光寺の住職が皆さんの願い事の書いた護摩木をご祈祷して燃やしてくれるという内容のイベントです。住職より護摩の由来等の説明もしていただき、みなさんの護摩木を御祈願してくれます。

1日で大きなイベントをやり、人を集めても、一過性であり、スタッフも対応できないため、期間を長めにしました。また、善光寺で行っている意味を感じる事ができるものとするため、このようなイベントにしました。

この狙いは大成功で、当初予定していた30本を大きく超えてしまったため、住職にお願いして倍の60本の護摩木を用意していただきました。

上から:リニューアルオープン記念イベント。まずは住職のお話からスタート/リニューアルオープン記念イベントの記念品の護摩木/記念イベントでは護摩も体験/創作紙芝居劇団孫六座の公演。会場である善光寺の歴史を学びました/賑わう茶屋の様子

おいしいごはんと
楽しい笑顔あふれるお寺に。

上:てらっこ茶屋の軒先の風景
右:てらっこ茶屋リニューアルオープン時のチラシ

てらっこ茶屋の定着

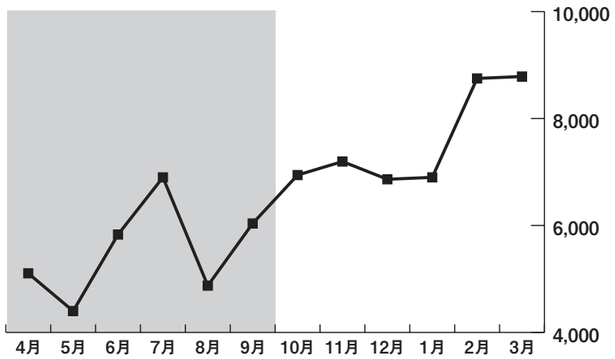
10月からリニューアルしたてらっこ茶屋は、来店者数も売上げも伸びました。特に、てらっこに遊びにきたママが茶屋を利用してくれる頻度が高くなったことがうれしいことです。

これは、ランチをてらっこの会場まで運んだ事も要因としてあげられます。てらっこの開催場所と茶屋は20メートル程離れていますが、お弁当を持って来たお友達とも一緒に食べる事ができます。

しかしその分、予想以上にスタッフの労力がかかることとなり、昼時にはキッチンの恩田さん、ホールの1名ママスタッフに加え、運んでもらう人のお手伝いが必要になりました。

リニューアルを受け、着実に売上げも上がりました。特に、2月、3月では、暖かくなるに連れて来客も増えました。これに合わせ、てらっこ自体の来場者も増え、相乗効果が生まれるようになりました。

茶屋リニューアル前の1日平均売上5525.2円(4月～9月)
⬇
茶屋リニューアル後の1日平均売上7341.6円(10月～3月)



成果

ここでは、「多世代憩いの広場てらっこ」と「てらっこ茶屋」をあわせた成果を書きたいと思います。

地域で子育を応援する場として

同じ子育て中のママ、ばぁばのスタッフが常駐する広場として、子育てについて、地域の風習、姑との話など、気軽に会話の中で相談ができるようになりました。ママだけが集まっても単なるストレス発散にしかならないことも多いですが、ここでは、具体的な相談ができることが良い事でした。

> **利用者の声**
> スタッフのばぁばの存在が大きい。穏やかなばぁばが多く、子育て、家庭での相談事もできる。お寺の雰囲気とばぁばの存在に癒される。

多世代の交流の場として

スタッフのばぁば、遊びにきたばぁばが子どもたちとふれあう事で、いきいきと楽しめる場所となりました。スタッフとして参加しているばぁばは「若い人、子どもと楽しむ事ができて、毎日元気をもらっている」と話してくれます。

また、関善光寺の住職は、若いママと子どもがお参りする習慣ができてきていることを大変喜んでくれています。

> **利用者の声**
> お寺にくることで、仏教のことや古くからのしきたり、マナーなどについても勉強できた。こういう機会がないとお寺にくることはあまりないので、ありがたい。

まちづくりの拠点として

お寺が市民活動、まちづくりの拠点として、認知されてきました。特に関善光寺では、てらっこだけではなく、様々な市民団体がお寺を活用しはじめています。うちのお寺も市民に開かれたお寺にしていきたいと相談をいただき、市民に解放するお寺がこの1、2年の間に3軒増えました。

上から:人気のイベント住職とのお話会/お寺の境内でシャボン玉遊び/人気のイベントわらべうたの会/人気の似顔絵コーナー/お寺の境内でシャボン玉遊び

今後の予定

てらっこは開始から4年が経ち、お寺で多世代交流できる場として、定着したといえると考えます。いつまでも助成金に頼っては継続できません。助成金に頼らず自立運営していくために、2014年4月から下記のように体制を変えました。

①武芸川てらっこを月曜日、関善光寺を金曜日。武儀てらっこは閉館

2013年度は武芸川地域で週2回、関善光寺で週2回、武儀地域で週1回開催してきましたが、武芸川地域、関善光寺で週1回とし、武儀地域のてらっこは閉館しました。これは、継続するために、スタッフの負担を減らす事、支出を減らす事という理由があります。

②スタッフはボランティアにてお願い

2013年度までは、有償ボランティアとしてスタッフをお願いしてきました。しかし、そこまでの収入がないため、①のように開催日時を減らし、スタッフの負担を軽減した上で、てらっこ広場のスタッフには、ボランティアでのスタッフをお願いする事になりました。

③収入の確保

ある程度の収入を確保するため、てらっこ茶屋の継続、本の寄付を募る「ブック基金」、子どもの不要品を寄付してもらうバザーを行う事にしました。

茶屋は、ある程度目処が立ったため継続的にやっていきます。「ブック基金」とは、お金ではなく本で市民活動へ寄付をしようという取組みで、当団体で昨年9月より取組んでいる事業です。利用者、地域の方々から本を寄付してもらい、当団体が運営するブックカフェ「ブックエカ」で買取を行い、その金額を市民活動へ寄付する仕組みです。このブック基金により、少しでも自立に向けた資金と支援を集めて行く事を目指して行きます。

このように、一つ一つからは利益が少なくても複合的な収入口を広げて長い間続くてらっこをつくっていきます。